

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		衛生自治会運営事業		担当課		市民環境課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度					
				担当G	環境政策グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	環境学習会実施数	回	75 34	75 28	75 20	75	75	75		
（個別目標）		3	ものを大切にし、循環型社会を実現するまち	主な費目	負担金補助及び交付金				イ	その他衛生自治会補助事業	件	30 12	30 25	30 7	30	30	30	30		
（施策）		3	市民による環境保全・環境美化活動への支援	対象	市衛生自治会				成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
（基本目標）	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	R2 年度～ 年度（ 年間）				ア	資源ごみ量	t	7,100 7,060	7,100 7,958	7,100 7,451	7,100	7,100	7,100	7,100		
（施策）		6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト		イ	埋ごみ量	t	2,300 2,442	2,300 2,517	2,300 2,414	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300			
(1) 総事業費の推移		単位	3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度		(4) 評価		所管課による評価			
年間 事業費 タ ル コ ス ト	財源内訳	千円	(実績・決算)		(実績・決算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)		有効性 評価	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズ 事業の効果 政策との整合性 事業を廃止の影響 類似事業との連携 公平性 家庭から排出される一般廃棄物に関しては市町村の事務であるため、確実なごみ出しを行うことが不可欠である。また、本市には焼却施設がないため、分別を徹底することにより、最終処分場へのごみの搬入量を少なくすることが重要である。環境学習会等を実施し、市民の分別に対する意識啓発に努めている。				
	国県支出金	千円																		
	その他特定財源	千円																		
	一般財源	千円	9,085	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000											
	事業費計 (A)	千円	9,085	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000											
	所要人員 (年間)	人	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300											
人件費	千円	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680												
人件費概算 (B)	千円	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680	1,680												
(A) + (B)	千円	10,765	8,680	8,680	8,680	8,680	8,680	8,680												
(2) 事業概要																				
事業目的	環境衛生思想の普及、公衆・家庭衛生環境の向上改善に努め、市民が健康で快適な衛生的環境の中で生活できるようにすることを目的とする。																			
事業内容	志布志市衛生自治会が実施する事業に対して市として補助を行う事業である。確実なごみ出しを実施するための組織であり、市内の環境美化を図るとともに、市民の環境に対する意識を高めるため、環境学習会の実施やごみステーション整備補助事業などの補助事業の実施。																			
開始経緯	確実なごみ出しを行うために、平成18年4月1日に旧町の衛生自治会が合併し事業を開始した。																			
実施状況	確実なごみ出し、美化活動の充実、地球温暖化防止のためのエコライフの推進を目的に、環境学習会をはじめ、ごみステーション設置補助事業等の各種事業を実施した。また、組織活性化のため3部会を構成し、部会による主体的な取組を実施した。さらに、市内のイベントにおいてオリジナルマイバック作成ブースを設置し、エコバック利用の普及・啓発を行った。																			
成果	令和4年度衛生自治会加入率 65.46% (9,948世帯/15,197世帯) (1) 環境学習会 28件 (310人) (2) ごみステーション整備補助事業 10件 (3) 分別報奨金支給事業 6,999,600円 (4) マイロードクリーン大作戦登録者数 966人 (総延長 749.0km)																			
課題	衛生自治会と市の連携を深める必要がある。																			
改革改善案	拡充		現状維持		○ 改善		効率化		廃止終了		その他衛生自治会補助事業については、環境問題に対処するため、内容の見直し拡充を図っていく必要がある。									

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ごみ収集運搬・処理事業		担当課		市民環境課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度			
				担当G	環境政策グループ	活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	資源ごみ収集量	t	7,100 7,060	7,100 7,958	7,100 7,451	7,100	7,100	7,100
（個別目標）	3	ものを大切にし、循環型社会を実現するまち	主な費目	委託料		イ	生ごみ・草木収集量	t	3,840 3,913	3,840 4,542	3,840 4,070	3,840	3,840	3,840	3,840	3,840		
（施策）	1	再資源化の推進	対象	市民		成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
（基本目標）	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	R2 年度～ 年度（ 年間）		ア	資源ごみ収集量	t	7,100 7,060	7,100 7,958	7,100 7,451	7,100	7,100	7,100	7,100			
（施策）	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト		イ	資源ごみ売却益金	千円	12,000 20,643	12,000 24,139	12,000 22,383	20,000	20,000	20,000						
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価									
年間 トータル コスト	事業費	千円							有効性 評価	所管課による評価								
	財源内訳	千円																
	国県支出金	千円																
	その他特定財源	千円	110,700	110,700	132,300	132,300												
	一般財源	千円	34,578	210,877	198,732	230,178	362,400											
	事業費計 (A)	千円	158,267	321,577	331,032	362,478	362,400	0										
人件費	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100												
所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100												
人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	560	0											
(A) + (B)	千円	158,827	322,137	331,592	363,038	362,960	0											
(2) 事業概要																		
事業目的	円滑な廃棄物管理を実施し、市民が健康で快適な衛生的環境の中で生活できるようにする。																	
事業内容	市民により分別された資源物を、市が委託する収集業者が回収し、中間処理施設にて品目ごとに梱包し、再資源及び再商品化業者に搬送する。この際、有価物については売却する。																	
開始経緯	平成11年ごみの13品目の分別を開始し、平成12年容器包装リサイクル法の施行により、19品目のごみの分別収集を開始した。																	
実施状況	志布志モデルとして確立された分別収集体制に基づき、資源ごみ、一般ごみ、生ごみ、粗大ごみ等の収集運搬及び中間処理に係る業務を市内各事業者等に委託し、円滑な収集、処理に努めた。																	
成果	ごみ収集運搬業務 158,743,200円 資源ごみ中間処理業務 78,566,400円 RPF処理及びその他リサイクル処理業務 26,167,359円 生ごみ・草木（堆肥化） 67,555,218円																	
課題	地震等の大規模災害に伴う災害廃棄物の処理を適切かつ迅速に行うため、災害廃棄物処理計画を令和4年3月に策定しましたが、日頃からの内容の周知を図っていく必要があると考えております。																	
		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了		改革改善案						

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生物多様性保全事業		担当課	市民環境課					(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度								
				担当G	環境政策グループ					活動指標(実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)								
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)											
まちづくりプラン (基本目標)		振興	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	1	4	1	4		ア															
(個別目標)		計画	4	自然環境にやさしいまち	主な費目 委託料					イ															
(施策)		体系	3	生物多様性の保全	対象 市民					成果指標(成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)							
(基本目標)		総合	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる						ア		(実績)	(実績)	(実績)											
(施策)		戦略	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト	事業期間 R4 年度～ 年度(年間)					イ															
(1)総事業費の推移				単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	(4)評価														
					(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価														
年間 事業 費 タ ル コ ス ト	財源内訳	国県支出金	千円		160	116					有効性 評価	生物多様性の保全と持続可能な利用についての意識向上に繋がる。													
		その他特定財源	千円		2,139																				
	一般財源	千円		1	2,636	2,752	2,752																		
	事業費計(A)	千円	0	2,300	2,752	2,752	2,752	0																	
	所要人員(年間)	人		0.025	0.025	0.025	0.025																		
	人件費概算(B)	千円	0	140	140	140	140	0																	
(A) + (B)		千円	0	2,440	2,892	2,892	2,892	2,892	0		効率性 評価	市民・事業者・各種団体・行政機関が連携することにより、持続可能な利用に繋がる。													
(2)事業概要																									
事業目的	市民の生物多様性の保全と持続可能な利用についての意識向上を図る。									達成度 評価									令和6年度より毎年生物多様性地域戦略の各種施策の点検を行い、令和7年度には、中間評価を行い、達成状況を確認する。						
事業内容	生物の多様性の保全と持続可能な利用に繋げるために、市民・事業者・各種団体・行政機関が連携・協働しながら取り組みを行って行く。																								
開始経緯	生物多様性の保全と持続可能な利用の認識向上に繋げていくためのきっかけづくりとして、生物多様性の恵みとふれあう自然体験や環境学習の機会を提供することにより意識向上に繋がる。									改革 改善 案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了														
実施状況	パネル展示、ホームページ開設、ケーブルテレビ取材対応など生物多様性に関する情報の発信、ネイチャーウォッチングなどのイベントの開催、外来生物の調査・駆除、講演会の開催などを行っている。																								
成果	生物多様性の普及啓発、生態系の維持に貢献している。																								
課題	特定外来動植物の侵入や、生態系に影響を与えている外来生物の等の調査・対策を行う必要がある。																								

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		共同墓地災害復旧・環境整備事業		担当課		市民環境課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度										
				担当G	環境政策グループ					活動指標（実施状況）		（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）								
				予算科目		会計	款	項	目	備考	（実績）		（実績）		（実績）										
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	6	＜コミュニティ＞人と地域が輝く共生・協働・自立のまち		予	1	4	1	4		ア	申請件数	件	8	8	8	8								
（個別目標）	1	市民みんなで考え、取り組むまち		主	負担金補助及び交付金					イ															
（施策）	1	基礎的コミュニティの活動支援		対	市民					成	果		（目標）	（目標）	（目標）	（目標）	（目標）								
（基本目標）	総合戦略			事	R4 年度～					ア	申請件数	件	8	8	8	8									
（施策）				業	年度（ 年間）					イ															
(1) 総事業費の推移		単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	(4) 評価		所管課による評価														
			(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	有効性評価 ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性		共同墓地を管理する市民から災害復旧や環境整備に対する助成を要望する声があり、補助金を交付することで適正な共同墓地管理につながる														
年間トータルコスト	事業費	千円																							
	財源内訳	千円																							
	国県支出金	千円																							
	その他特定財源	千円																							
	一般財源	千円		173	0	1,900	1,900	0																	
	事業費計 (A)	千円	0	173	0	1,900	1,900	0																	
	所要人員 (年間)	人		0.025	0.025	0.025	0.025		効率性評価 ・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携		共同墓地の災害復旧、環境整備が行われることにより適正な管理ができるため必要である。														
	人件費概算 (B)	千円	0	140	140	140	140	0																	
	(A) + (B)	千円	0	313	140	2,040	2,040	0																	
(2) 事業概要																	達成度評価 ・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		共同墓地の管理者の高齢化や過疎化が進むなか、負担軽減や適正管理の継続に繋がっている。						
事業目的	適正な共同墓地管理の推進を図る																								
事業内容	共同墓地の災害復旧、参道整備、排水路設置、スロープ及び水道設置等の環境整備に対して補助金を交付する。																								
開始経緯	共同墓地の災害復旧及び環境整備の費用を補助することで共同墓地の適正な管理につながる。																								
実施状況	共同墓地の災害の復旧、環境整備を行った。																								
成果	共同墓地の災害の復旧、環境整備が図られた。								○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了												
課題									改革改善案																

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		特定外来生物防除等対策事業					担当課		市民環境課		(3)指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度					
							担当G	環境政策グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画	2	＜生活環境＞自然や風土と共生する安心で豊かなまち					予算科目	会計	1	4	1	4				25	10	0				
（個別目標）	4	自然環境にやさしいまち					主な費目	委託料															
（施策）	3	生物多様性の保全					対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
（基本目標）	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる											ア	生息エリア内の在来種数	種					3	5	6	
（施策）	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト					事業期間	R6 年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1) 総事業費の推移		単位	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価												
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円			1,750			有効性 評価	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズ 事業の効果 政策との整合性 事業を廃止の影響 類似事業との連携 公平性 	アルゼンチンアリは、繁殖力が強いので、繁殖している地域では、在来種がいなくなり生態系に影響が出ている。また、住宅地にも侵入し、市民にも被害が出ている状況である。 ハイイロゴケグモは、毒があるため、市民の身の安全を守るためにも駆除が必要である。												
		財源内訳	千円																				
		その他特定財源	千円																				
		一般財源	千円			1,750																	
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	3,500	0										0					
		所要人員 (年間)	人																				
	人件費概算 (B)	千円	0	0	0	0	0	0															
	(A) + (B)	千円	0	0	0	3,500	0	0		効率性 評価	撲滅するためには、一斉防除の必要がある。												
(2) 事業概要																							
事業目的	特定外来生物による生態系に係る被害の防止・低減を実現する。							達成度 評価															
事業内容	特定外来生物であるハイイロゴケグモやアルゼンチンアリの生態調査及び防除を実施、市民生活の影響を軽減する。																						
開始経緯	市民生活に影響を及ぼす特定外来生物の防除を行うことで、市民の安心安全な生活の維持を図るため必要である。																						
実施状況																							
成果																改革改善案	拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了		
課題																							

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		(仮称) 循環センター事業		担当課	市民環境課					(3) 指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
				担当G	環境政策グループ					活動指標 (実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	1	4	1	4		ア	延べ利用者数	人				7,800	10,000	10,000
(個別目標)		計画体系	3	ものを大切に、循環型社会を実現するまち	主な費目					イ	許可証発行枚数	枚				1,000	1,500	2,000
(施策)		1		再資源化の推進	対象					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	市民					ア	延べ利用者数	人				7,800	10,000	10,000
(施策)		6		環境にやさしいまちの推進プロジェクト	事業期間					イ	許可証発行枚数	枚				1,000	1,500	2,000
(1) 総事業費の推移				単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	(4) 評価		所管課による評価					
					(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	有効性評価	資源ごみを出す機会が増え、ごみを出しやすい環境整備が整った。						
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円														
			その他特定財源	千円														
			一般財源	千円			24,874	2,242	2,242	2,242								
			事業費計 (A)	千円	0	0	24,874	2,242	2,242	2,242								
			所要人員 (年間)	人			0.025	0.025	0.025	0.025								
			人件費概算 (B)	千円	0	0	140	140	140	140								
			(A) + (B)	千円	0	0	25,014	2,382	2,382	2,382								
(2) 事業概要																		
事業目的		常設のごみステーションと5Rの推進に向けたリユースショップやリペア施設を併設することで、ごみを出しやすい環境整備を行い市民の利便性向上を図るとともに、市民の環境に対する理解を深め、SDGsの取組につなげていく。																
事業内容		常設のごみステーション(仮称)循環センターを設置することで、資源ごみを出す機会を増やす。併せて、市民の環境に対する理解を深め、SDGsの取組につなげていくためリユースショップやリペア施設を併設する。																
開始経緯		資源ごみを出す機会を増やし、市民の利便性向上を図るとともに、リユースショップやリペア施設を併設し、5Rの取り組みなど、市民の環境に対する普及啓発を図るため必要性がある。																
実施状況		令和5年度の有明町伊崎田地区に循環センターを整備、令和6年4月から運用を開始した。																
成果		4月の開設以降、徐々に市民へ周知されており、特に日曜日の利用者が増えて来ている。ごみを出しやすい環境整備が図られている。																
課題		同様の施設の志布志地区への整備を検討する必要がある。																
		拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了								
		改革改善案																

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日作成

事務事業名		公共用水域保全事業		担当課 市民環境課					(3) 指標の推移									
				担当G 環境政策グループ					活動指標 (実施状況)		単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
				会計 款 項 目 備考							(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
				1 4 2 3 し尿処理費							(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)		
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	予算科目						ア	補助金交付申請件数	件	90 46	90 23	74 49	74	74	
(個別目標)	3	ものを大切に、循環型社会を実現するまち		主な費目	負担金補助及び交付金					イ								
(施策)	4	生活排水の適正な処理の推進		対象	合併処理浄化槽へ転換、農集施設へ接続し、家庭からの生活雑排水を適正に処理した者					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる		事業期間	H28 年度～ 年度 (年間)					ア	合併浄化槽への転換件数	件	80 38	80 19	66 47	66	66	
(施策)	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト			イ	農業集落排水施設の接続数	件	10 8	10 4	8 2	8	8						
(1) 総事業費の推移				単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	(4) 評価							
					(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価							
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円	1,325	1,347	1,895	1,852	1,852		有効性評価	この事業が廃止・休止となった場合、合併浄化槽への転換、農業集落排水施設への接続には費用負担の割合が高くなるため、事業推進が図れない。結果として、公共用水域の水質保全の妨げとなる。市内にある個人の専用住宅を対象にしており、偏りはない。						
			その他特定財源	千円														
			一般財源	千円	2,495	773	2,465	3,388	3,388									
			事業費計 (A)	千円	3,820	2,120	4,360	5,240	5,240	0								
			所要人員 (年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050									
			人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280	0								
(2) 事業概要				(A) + (B)	千円	4,100	2,400	4,640	5,520	5,520	0	効率性評価	これ以上の削減の余地はない。					
事業目的	生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止する。																	
事業内容	汲み取り便槽及び単独浄化槽から合併処理浄化槽へ転換、又は農業集落排水施設へ接続することで、家庭からの生活雑排水を適正に処理した者に対して10万円を限度として補助金を交付する。令和2年度から一部補助金額の見直しを行い、単独浄化槽や汲み取り便槽を撤去した場合に10万円、埋め置く場合は4万円の補助金を交付する。																	
開始経緯	平成19年度から開始した。それまでは、単独浄化槽から合併浄化槽への転換が対象であったが、くみ取り便槽から合併浄化槽への転換及び農業集落排水施設への接続にも補助の範囲を広げた。枠の拡大により合併浄化槽への転換及び農業集落排水施設への接続率の向上を図る。																	
実施状況	単独処理浄化槽若しくは汲み取り便槽から合併浄化槽への転換又は農業集落排水への接続をすることにより、生活排水の適正処理を行った者の単独処理浄化槽又は汲み取り便槽の撤去費用等について、1件あたり10万円を上限に補助金を交付した。令和2年度から一部補助金額の見直しを行い、単独浄化槽や汲み取り便槽を撤去した場合に10万円、埋め置く場合は4万円の補助金を交付する。																	
成果	(1) 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換 30件 (2) 汲み取り便槽から合併処理浄化槽への転換 17件 (3) 農業集落排水への接続 2件 合計 49件										達成度評価							
課題	農業集落排水処理区域に於いては、計画時の接続率70%を達成できたが、今後もさらに接続率向上に向けた取り組みが必要となる。それ以外の地域については、合併処理浄化槽への転換をさらに推進する。それには人口減少や世帯高齢化、費用負担の問題等もあるが、公共用水域保全の重要性についてさらに周知し、推進していく必要がある。										改革改善案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了 施工業者等に市民へ汲み取り便槽や単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促すための取組をするよう依頼し、転換を促進する。						

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日 作成

事務事業名		浄化槽設置整備事業		担当課	市民環境課					(3) 指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
				担当G	環境政策グループ					活動指標 (実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)							
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち	予算科目	1	4	2	3	し尿処理費	ア	補助金交付申請	件	150 91	150 82	131 93	131	131				
(個別目標)		3	ものを大切にし、循環型社会を実現するまち	主な費目	負担金補助及び交付金					イ											
(施策)		4	生活排水の適正な処理の推進	対象	し尿と生活雑排水を併せて処理する10人槽以下の浄化槽を、専用住宅に設置する者					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる							ア	浄化槽設置数	件	150 91	150 82	131 93	131	131				
(施策)		6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト	事業期間	H28 年度～ 年度 (年間)					イ											
(1) 総事業費の推移		単位		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	(4) 評価		所管課による評価									
				(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	有効性評価	河川等、公共用水域の水質汚濁の主な原因は、家庭からの生活排水とされている。し尿と生活雑排水を併せて処理をする合併浄化槽への転換、整備を進めることにより公共用水域の水質を保全することができる。し尿、生活雑排水を浄化槽によって適正に処理する世帯が多くなることにより、公共用水域への負荷が軽減される。										
年間 事業費 ター コスト	財源内訳	千円	18,717	14,401	13,821	22,868	22,868				効率性評価	これ以上の削減の余地はない。									
	国県支出金	千円										達成度評価	くみ取り便槽、単独浄化槽から合併浄化槽への転換には多額の費用が必要であり、補助継続する必要がある。								
	その他特定財源	千円											改革改善案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了							
	一般財源	千円	4,412	4,689	17,800	20,982	20,982							課題	施工業者等に市民へ汲み取り便槽や単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促すための取組をするよう依頼し、転換を促進する。						
	事業費計 (A)	千円	23,129	19,090	31,621	43,850	43,850	0													
	所要人員 (年間)	人	0.800	0.800	0.800	0.800	0.800														
	人件費概算 (B)	千円	4,480	4,480	4,480	4,480	4,480	0													
(A) + (B)	千円	27,609	23,570	36,101	48,330	48,330	0														
(2) 事業概要																					
事業目的	生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止する。																				
事業内容	生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、国、県による補助金を活用し、専用住宅に合併浄化槽を設置する者に対し補助金を交付することにより合併処理浄化槽の普及を図る。補助額は、10人槽以下の浄化槽に対し、5人槽332千円、7人槽414千円、10人槽548千円を交付する。また、令和5年度から単独浄化槽や汲取り便槽から合併浄化槽へ転換する際の宅内配管に係る費用について、150千円を上限に交付する。																				
開始経緯	平成18年4月に「志布志市生活排水処理基本計画」を策定したことによる。農業集落排水事業区域以外について、生活雑排水を合併処理浄化槽で処理することとし、合併処理浄化槽設置者に補助金を交付する。																				
実施状況	補助金 新築 (市外) (1) 5人槽 110,000円 (2) 7人槽 138,000円 (3) 10人槽 182,000円 新築 (市内) (1) 5人槽 221,000円 (2) 7人槽 276,000円 (3) 10人槽 365,000円 転換 (1) 5人槽 332,000円 (2) 7人槽 414,000円 (3) 10人槽 548,000円 転換に伴う宅内配管 150,000円																				
成果	設置基数等 (1) 5人槽 86基 22,225,000円 (2) 7人槽 7基 2,346,000円 (3) 10人槽 0基 0円 (4) 宅内配管 47基 7,050,000円																				
課題	補助金制度により合併処理浄化槽設置数は増加してきている。しかし、狭小敷地への設置問題や設置費用及び維持管理費の負担軽減が、設置数を更に増やしていくうえでの課題である。																				

令和 6 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 6 年 7 月 1 日 作成

事務事業名		農業集落排水事業		担当課	市民環境課					(3) 指標の推移		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度				
				担当G	環境政策グループ					活動指標 (実施状況)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
				予算科目	会計	款	項	目	備考	ア 収納率		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち		1	1	1	農業集落排水事業費	イ 一般管理費		93	94	95	96	97	98				
(個別目標)		振興計画体系	3	ものを大切にし、循環型社会を実現するまち						イ 一般管理費		千円	93,500	93,500	93,500	93,500	93,500				
(施策)		振興計画体系	4	生活排水の適正な処理の推進						成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる						ア 収納率		%	93	94	95	96	97	98			
(施策)		総合戦略	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト						イ 一般管理費		千円	93,500	93,500	93,500	93,500	93,500	93,500			
				事業期間	H7 年度～																
(1) 総事業費の推移		単位	3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度								
			(実績・決算)		(実績・決算)		(実績・決算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)								
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円		9,760	2,083	44,822	78,485													
	人件費	財源内訳	千円	26,487	17,056	271,628	199,328	210,000	210,000												
		一般財源	千円	76,338	31,392	183,793	237,985	225,000	225,000												
	事業費計 (A)	千円	102,825	58,208	457,504	482,135	513,485	435,000													
	所要人員 (年間)	人	0.800	0.800	0.800	0.800	0.800	0.800													
	人件費概算 (B)	千円	4,480	4,480	4,480	4,480	4,480	4,480													
(A) + (B)		千円	107,305	62,688	461,984	486,615	517,965	439,480													
(2) 事業概要																					
事業目的	農業集落排水処理施設の適正な維持管理を図る。																				
事業内容	◎各浄化センター設備や管路等の維持管理 ◎農業集落排水処理施設への接続 (工事申請・完成検査等) ◎農業集落排水処理施設の維持管理委託契約・(設計書作成等) ◎農業集落排水処理施設使用料徴収事務 ◎農業集落排水事業会計決算統計 ◎農業集落排水処理施設に係る地方債起債 ◎消費税及び地方消費税申告納付 ◎苦情処理																				
開始経緯	平成7年野井倉地区、平成9年松山地区、平成10年通山地区、平成15年蓬原地区がそれぞれ供用開始している。																				
実施状況	浄化センター及び中継ポンプや管路等を適正に維持管理することで、し尿や生活雑排水等の汚水を浄化し、公共用水域の水質保全に努めた。																				
成果	主な経費		(1) 修繕費 (浄化センター機器設備等) 6,428,610円 (2) 委託料 (維持管理業務を除く) 11,024,800円 (3) 電気代 12,392,964円 (4) 水道代 976,831円																		
課題	最も古い野井倉地区が供用開始から28年経過しており、機器設備等の更新を計画的に行っていく必要がある。		国県補助を活用し、耐用年数が過ぎている機器設備等の更新を行っていく。公営企業会計の移行により、施設毎の収支を把握し、中長期的な視点で経営方針を決定する。																		
				有効性評価		効率性評価		達成度評価		改革改善案		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了	
				<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズ 事業の効果 政策との整合性 事業を廃止の影響 類似事業との連携 公平性 		<ul style="list-style-type: none"> 事業効果向上 事業費削減 事務の効率化 費用対効果 財政負担の必要性 関係者との連携 		<ul style="list-style-type: none"> 数値目標 目指す状況 実現性 情勢、環境の変化 事業期間 		国県補助を活用し、耐用年数が過ぎている機器設備等の更新を行っていく。公営企業会計の移行により、施設毎の収支を把握し、中長期的な視点で経営方針を決定する。		市民生活の環境衛生や公共用水域の水質保全には欠くことのできない事業であり、市民生活に欠くことのできない施設である。この事業自体は市内の4つの地域しかなく、その経営は一般会計からの繰入金金が60%近くを占めており、施設利用ができない住民にとっても負担を強いられるものとなっている。施設利用者からは使用料金を徴収しているが、その不公平感をなくすためにも使用料金の値上げも検討する必要がある。		施設の老朽化が進んできており、修繕や更新にかかる修繕費等の増加が今後見込まれる。令和5年度から公営企業会計へ移行し、複式簿記により資産を含んだ形で経営状況を的確に把握し、中長期的な視点で経営方針を適切に決定することができる。		計画時の加入率70%は達成したが、施設老朽化に伴う修繕費の増加があり、また、起債償還額が減少するまでは、一般会計からの繰入額に頼る経営状況は変わらない。					